



内
家
開
書

1797



414
A 297

一長山守縣令ノ説

伏願ニ木原黨家永黨前山黨村路遠久黨ノ四
派アリ木原黨ハ百有餘人ノ生徒ナリ家永黨ハ吐平
輩百人程前山及村路遠久兩黨ハ微々スルモノニテ
就中徳久ノ如キハ行跡不正頗ル人知王ヲ缺ク是等
ハ皆テ宗派ノ遺ヲカ如ク趣旨大同小異ニシテ偏ニ
高心ヲ蓄ルニ非ラス何レモ其黨ハ派ヲ結ビ維持
スルノ方計ニ注シ各々ラ由ラトシ謀及不軌ヲ止ル
務キル景況ナシ故ニ木原黨ハ礦業ニ従事セム
欲シ宗派黨ハ米高會所設テテ出願セシ程ナリ元
來各黨間長短馬山口ノ累徒輩失散セサリシニ
縣廳ニ於テタタヤ願書スルニ及アリテ皆女子ニ對シ
郵重ノ取扱アリシヨリ自然ト其心ヲ驕ニシムルニ至

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

六
歳
省

リし形勢ナリシモ各地ノ暴徒敗亡後ハ漸次一氣カラ
僅シ黨習ヲ振ノ色ヲ懸ハセリ固テ自今一党者
ハハニミラスト種モ之ヲ由ノ如ク市角野切主スル事
ラ一切與ヘサシハ大ニ夫知主スヘク西黨ノ所切主モ決テ一
途ニ私利ヲ射ルノ心度ニモ見ヘス焉其邦借金並
出来スシハ其金ハ野鷹ニ預リ置キ會知ヲ嚴督
スル見也ナリ且大改進黨國社へ同盟セルモ從之
主ル社ニ由來スル一社ナシハ同盟セザン筈ナリト
雖モ天下ノ有志輩國ヲ愛護スルノ誠心ヨリ會
合スルハノ事ヲ聞キシ上ハ熱心視スヘカラストノ論議
起リテ融絡ヲ通スルニ至リシモ之門及チんカ故比
度ハ出汝セシモノ稀ナルト
或人ノ説

富永黨中代官人ハ
トク既ニ長崎一社ヲ開ケリ
黨員ハ五六百人ナリ木原黨ハ百人餘ニシテ河シモ
視論家ナリ村路徳久ノ如キハ臨機木原黨ノ機
易ナリト煽動シ夫ヲ援トシ票券ヲ謀リ或ハ
票券ハ一連絡シ陰ニ策謀スル程ノ氣力無キニ
モ雖ラスト雖モ彼等方今資本無キカ故大事
ハ行ハズルハサルトシ
長崎縣管内ニ於テハ其加賀ノ外皆而顧慮スル
也ナク唯島原人北山信業ハ随分多ク書生輩
ノ心ヲ得ルノ人物ナルト工聊カ注スルトキモノニ
非サルカ

福岡縣令ノ説

之二千福岡藩士ノ所有共同金三千圓アリシヲ以テ
 十一社ト唱フルヲ創立シ習學セシニ西南事變ニ際シ
 社員ノ中隈ニ其金ヲ費絶セシモノアリテ六百圓
 程ヲ餘スヲ以テ正論家向水誠ノ上新ニ向陽社
 ト稱フルヲ用キ致之月一途ノ社トス又同藩中
 激論黨アリシカ其數寡クシテ竟ニ正論黨
 ニ倚リ此社ニ加入ス一昨年中高知ヨリ教員
 兩名ヲ迎へ盛ニ演説會ヲ開キ政体ヲ訓諭
 スルノ風聞頻チリ其時自身留守中ノ事
 ナリ故歸縣ニ居官如軍ヲ臨席セシメ
 聊カ論辨ヲ變換セシト雖モ尚曖昧ト政府
 ヲ駁ルノ意多味アリト雖モ其會口ヲ止スル程

ノ點ニ至ラズ然ルニ近頃、黨國社ノ入スルノ
可否如何ト云フ問題ヲ教員ヨリ出タセシニ
其會也シモ、五十名程アリ其中三十名程
ノ論議可トスルヨリ、密議決セリ元來同社ハ
二百八十名程ヨリ成テシ其列ニ在サレノ官員ハ
アリ且之等ハ正論黨ニテ激論黨ハ之ハ各
ナリ此日ノ會議ハ正論黨ノ寡員ナリヨリ、所
出ノ如ク可ト決セシト雖モ、正論黨ノ其
事ヲ聞及フヤ、多ク大論トナリ唯、黨國ノ
名ヲ立テ信シ、輕クシテ、自己ノ進退ヲ他邦人ニ
委リ、其スルノ決、其ヲ論破シ、竟ニ再議ノ上ニ
月十九日三名程、元途大改へ出張セリ是ハ親
シク黨國社ノ極、其ヲ問題試シ、國家ノ爲メニ

有益ノ見出テ、アラハ、社ニ決シ、サシニテモ、活
セサル、黨アラハ、断然入社セサルニ決定スル、爲
ナリト出、長人ノ中、官員モ交ル、工工風説ニ渡
也モ同社ナリト云フト雖モ、官員、單ノ入社セ
ルハ、何レモ、相應ニ、言量シ、アリテ、平素、激論黨ヲ
厭スルニ、足ルノ人物ナルカ、故、自身ハ、黙視スルト
且、激論黨ノ中、直ニ、言論、あり、喝スヘキ、ハ、四五
名ノ、シニテ、其、餘ハ、何レモ、初、思、多、身、困ニ、シテ、雷
同スルノ、徒、アリト
然レ、本、神、風、連ノ、殘、黨ハ、是、角、事ヲ、好シ、不、断
不、平、ヲ、抱キ、極、端、凝、結ノ、人物ナルカ、故、生、二
良、ク、ヲ、得、ル、ハ、最モ、難、カ、ル、ト、シ、ト
或、人ノ、説

今度大阪愛國社へ集會せしは二十一日社にシテ
三四十人ニ及ビ議論膠着ス各々退散し四五社
ヲ一組トシ其議ヲ決シ來ル六月再ビ大阪へ不
會スルノ約ナリト故ニ福岡縣ニモ五月中其
一組ノ集議席ヲ開クヘシト一體各地ニ
愛國團結ノ不平ヲ述ハタケテラス強ニ信徒
何シモ愛國本ヲ究ク之ナルカ故容易ニ大事
ヲ爲ス能ハサルヘシト雖モ所謂愛國社ト稱
フル輩ハ到底政府ノ此方ニ傾キタルハ其故無智
分多クナル也其術策ニ係リ煽動ヲ爲ラ
サル様注意高シキ要ナルヘク假令相應ノ事業ヲ爲ラ
ユルモ直ツニ愛國ナル徒ハ生涯カ合良スルノ事ナラ
サルカ故師ヲ以テ其術ヲ無カルヘシト

